

北九州市物流拠点構想

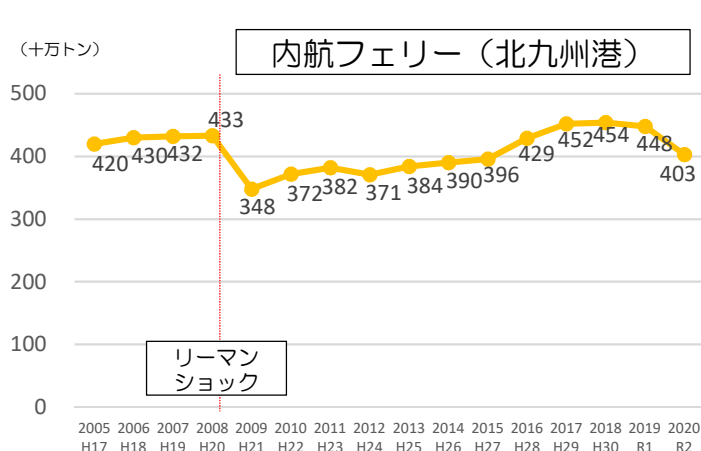
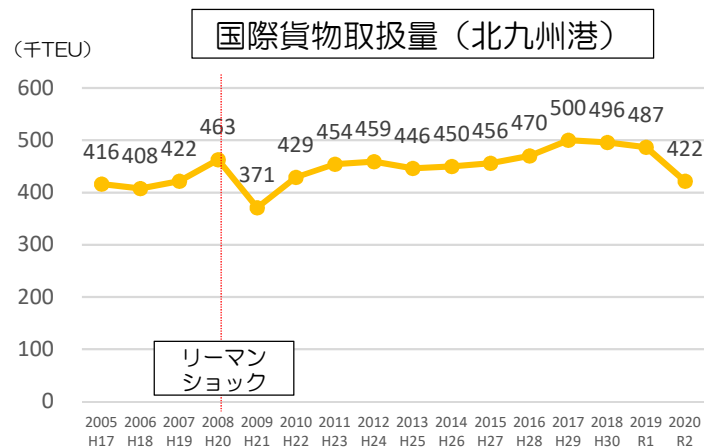
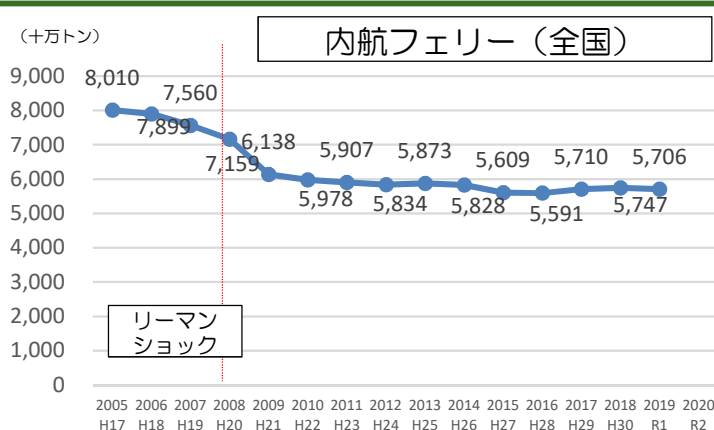
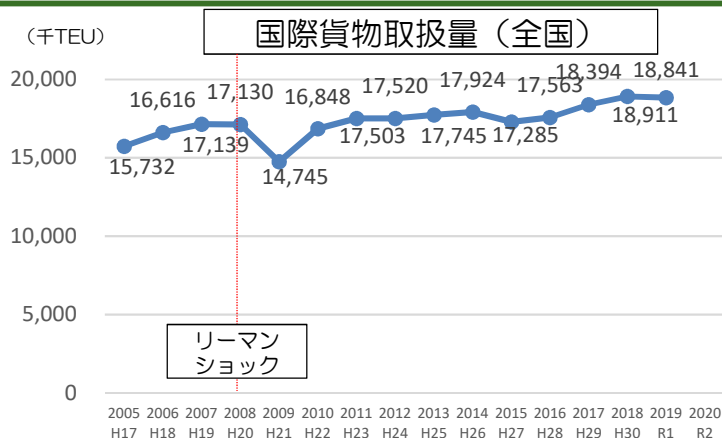
物流を取り巻く現状と課題について

令和3年10月28日
経済港湾委員会 報告資料

I. 物流を取り巻く現状（港湾貨物取扱量）

1-1. 国際貨物取扱量・内航フェリー貨物量の推移

- 国際貨物取扱量（コンテナ）は、長期的に増加傾向
 - 内航フェリー貨物も 2015年より新門司地区に就航しているフェリーが大型化したことにより、長期的に増加傾向
- （＊2020年は、新型コロナの影響を受け、外航コンテナ貨物・内航フェリー貨物ともに減少）

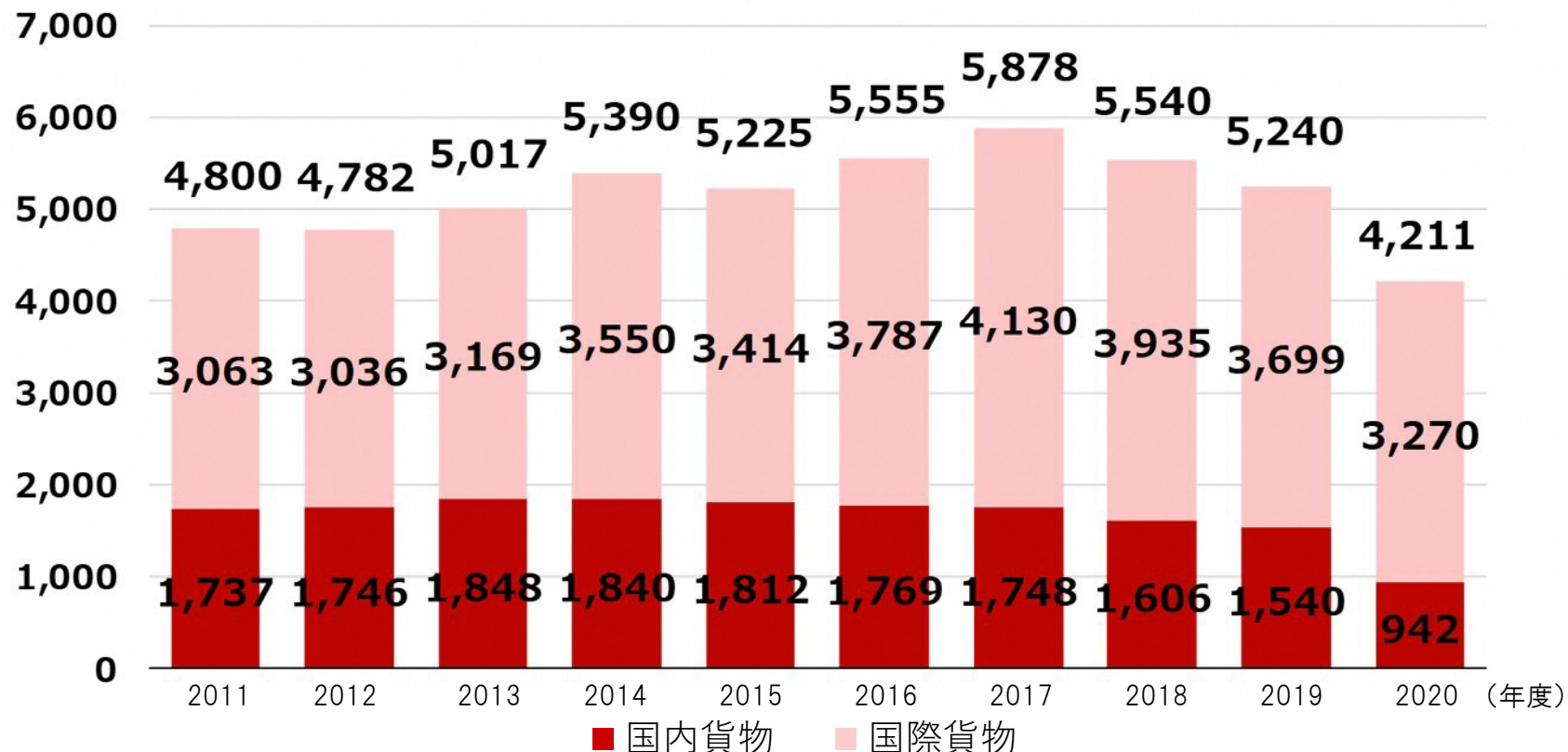


I. 物流を取り巻く現状（航空貨物取扱量）

1-2. 全国の航空貨物取扱量（国内＋国際）の推移

- この10年間の全国的な航空貨物取扱量は概ね横ばいの状況
- 今後の航空貨物需要の見通しとしては、国際航空貨物については半導体及び自動車・電子部品など製造関連をはじめ、越境EC市場の更なる拡大が見込まれる
- また、国内航空貨物についてもトラック規制を踏まえ、航空や船舶の需要転換が見込まれる
- 北九州港や北九州空港への需要が高まるものと考えられる

【単位：千トン】



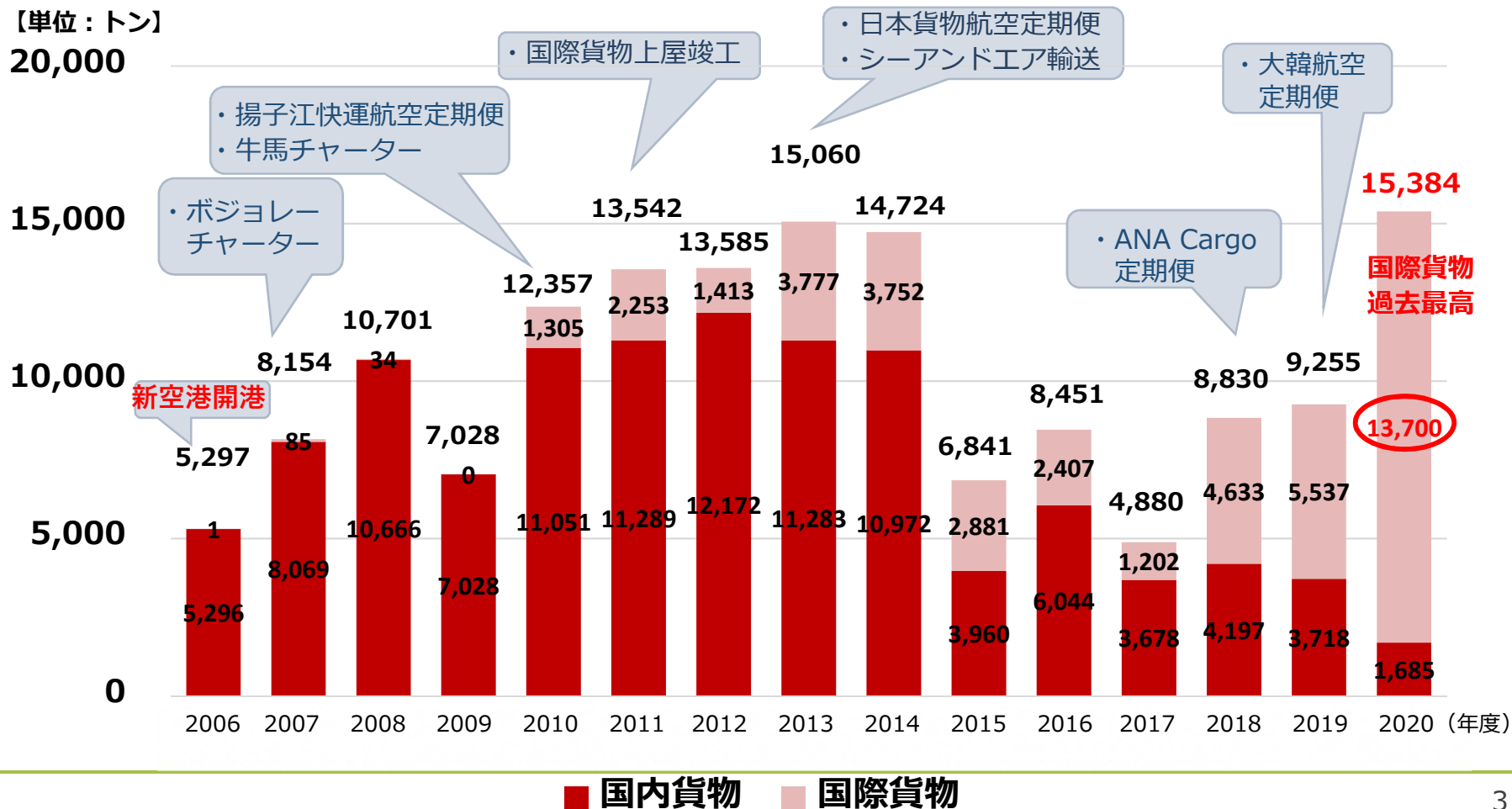
資料) 国土交通省航空局『暦年・年度別空港管理状況調書』より作成

I. 物流を取り巻く現状（航空貨物取扱量）

1-3. 北九州空港の貨物取扱量（国内＋国際）の推移

- 2020年度の航空貨物取扱量（国内・国際）は過去最高となる15,385t を記録 とりわけ、国際航空貨物取扱量は前年度比（2019年度）約2.5倍の13,700t と急増

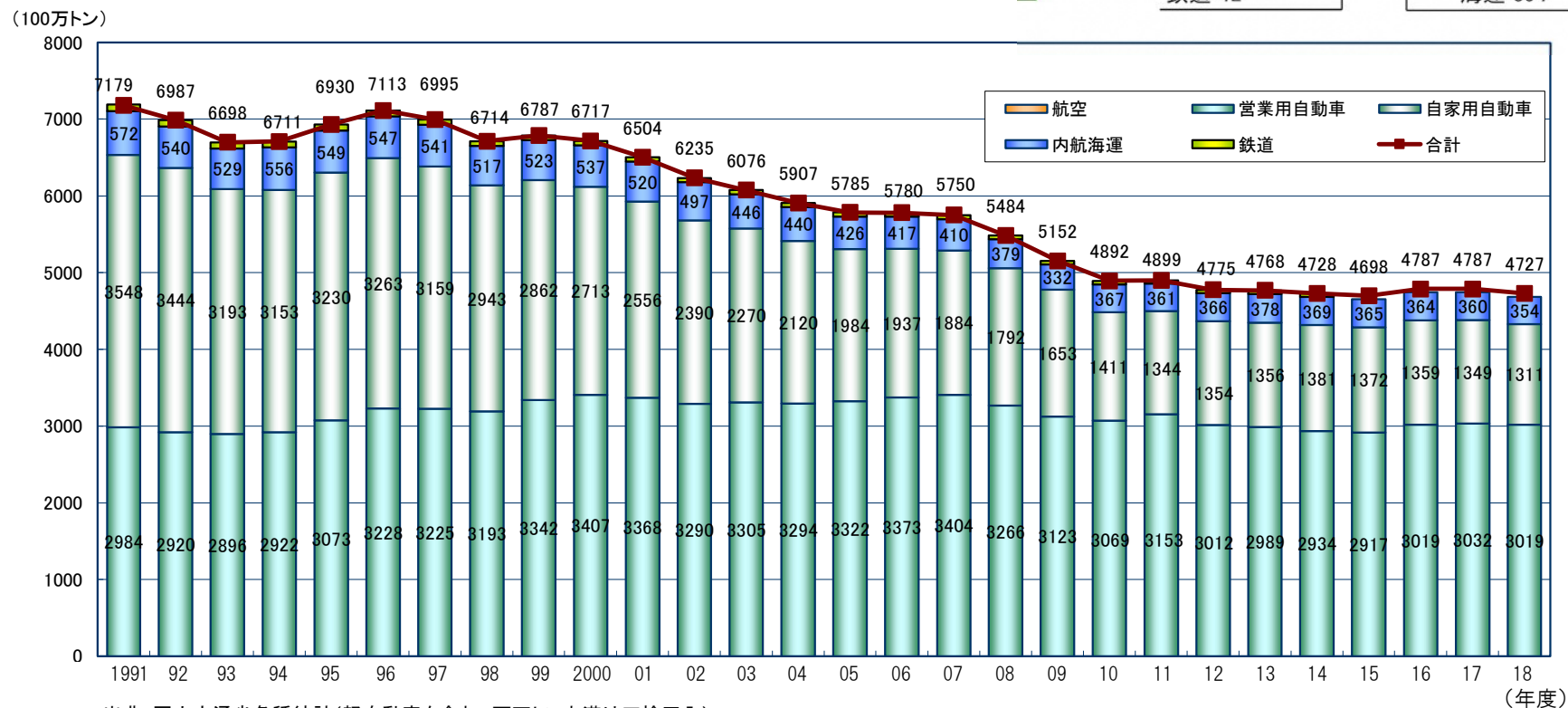
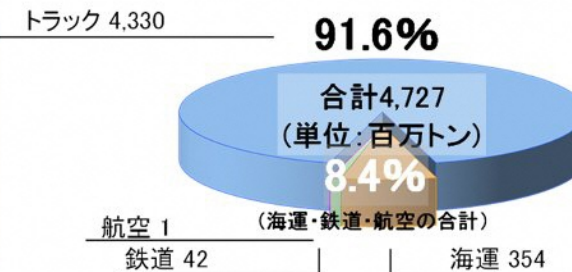
* 急増の要因：国際定期貨物便の増便（2便→3便）や輸入貨物の取扱い開始によるもの



I. 物流を取り巻く現状（国内貨物輸送量）

2-1. 国内貨物輸送量の推移（トンベース）

- 国内貨物輸送量は、トンベース、トンキロベースとも、長期的に減少傾向、近年は横ばいで推移。
- 輸送機関別分担率は、トラックがトンベースで91.6%、トンキロベースで51.3%を占めるなど基幹輸送モードに。



出典:国土交通省各種統計(軽自動車を含む、百万トン未満は四捨五入)

注:トラックは2010年10月より、調査方法および集計方法を変更したため、2010年9月以前の数値とは連続性が担保されない。

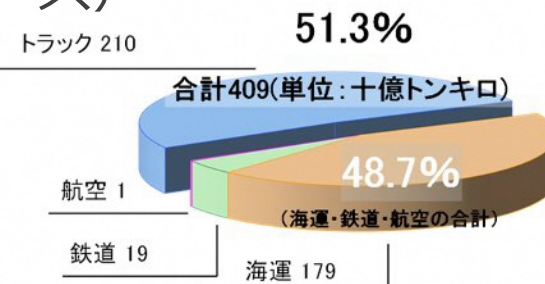
2010年度の数値には、2010年3月の北海道・東北運輸局管内の数値は含まない。また、2011年度の数値には、2011年4月の北海道・東北運輸局管内の数値は含まない。

トラックは自家用軽自動車を含まない。

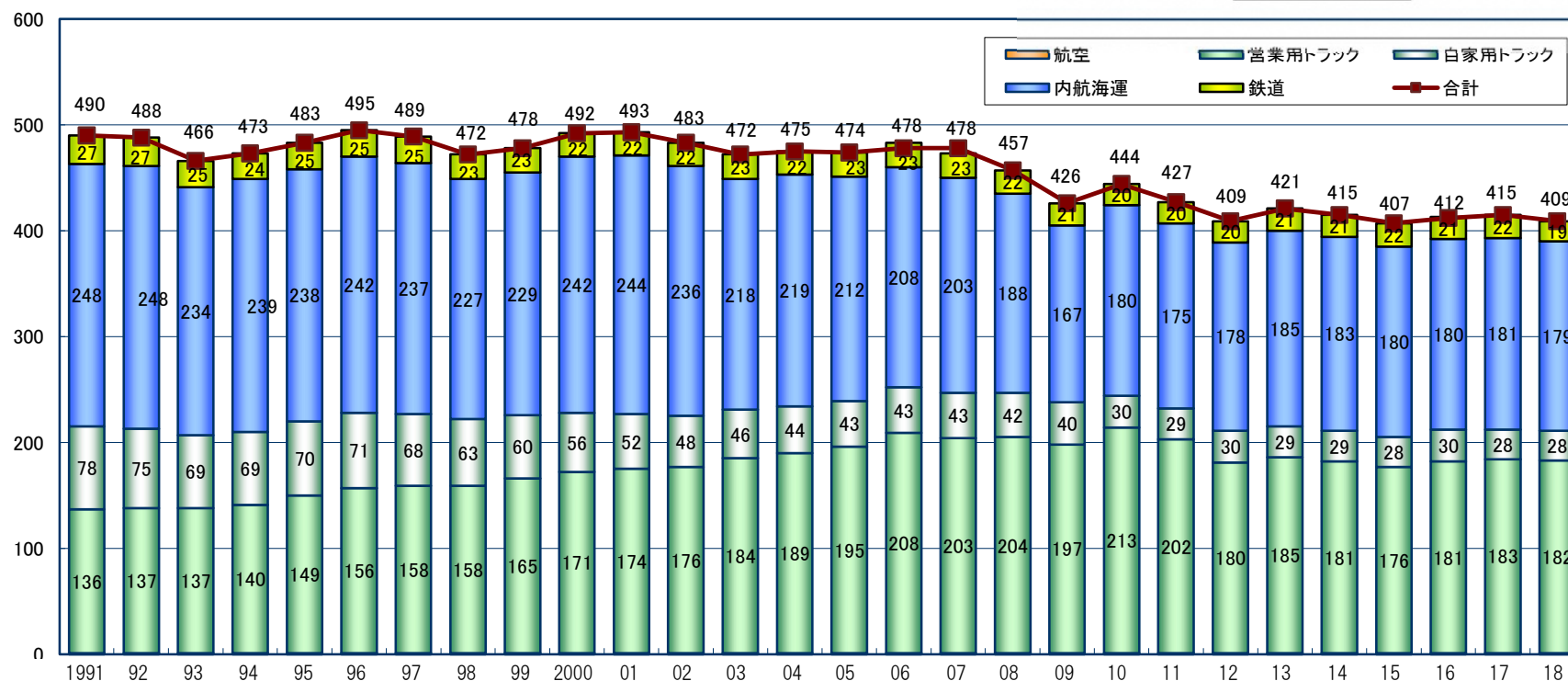
I. 物流を取り巻く現状（国内貨物輸送量）

2-2. 国内貨物輸送量の推移（トンキロベース）

- 今後も人口減少や物流効率化の進展等により、国内貨物輸送量は、減少傾向の見通し。



(10億トンキロ)



出典:国土交通省各種統計(軽自動車を含む、百万トン未満は四捨五入)

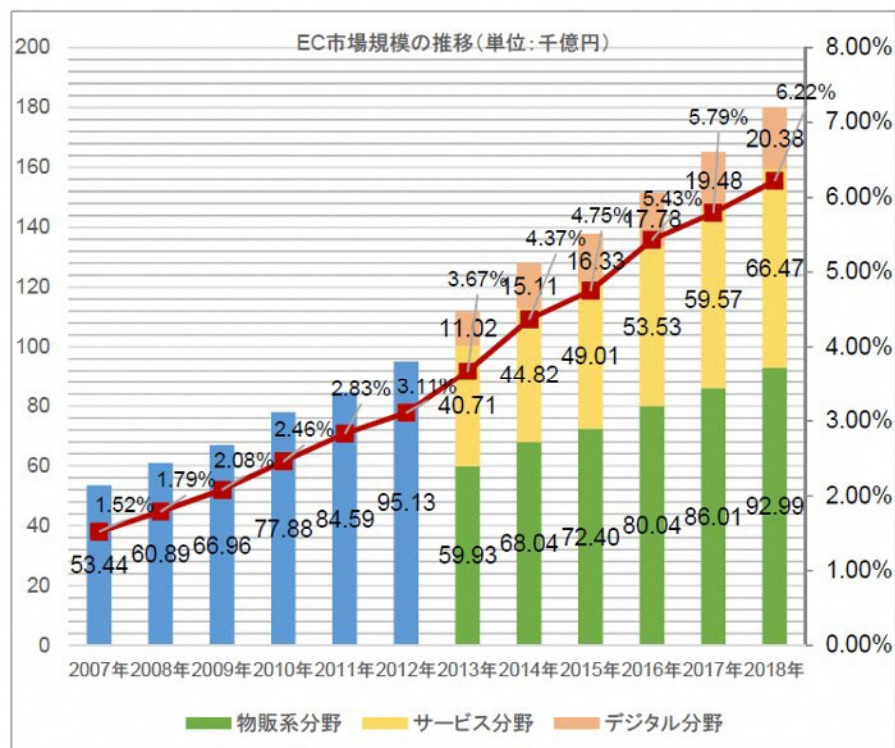
注:トラックは平成2010年10月より、調査方法および集計方法を変更したため、2010年9月以前の数値とは連続性が担保されない。2010年3月の北海道・東北運輸局管内の数値は自家用軽自動車を含まない。

I. 物流を取り巻く現状（物流市場の変化）

3-1. EC市場の成長と宅配便の増加

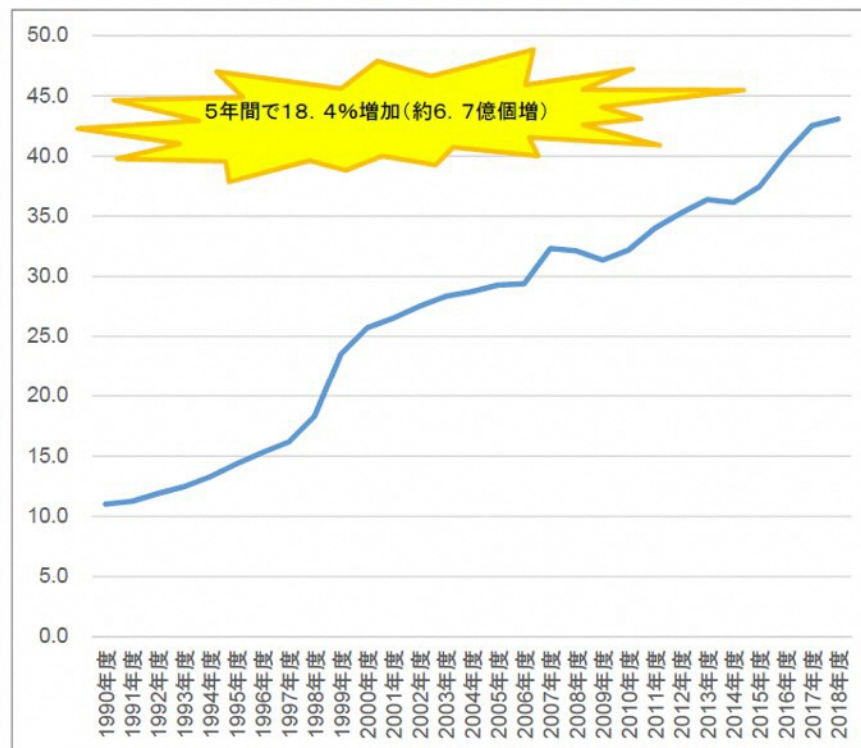
- EC市場は、2018年には全体で約18.0兆円規模、物販系分野で9.3兆円まで拡大。
- EC市場の拡大に伴い、宅配便の取扱い件数は5年間で約6.7億個(+18%)増加

【EC市場規模の推移】



出典: 経済産業省「電子商取引実態調査」
注: 分野別規模は2013年度分から調査開始

【宅配便取扱実績の推移】



出典: 国土交通省「平成30年度宅配便等取扱個数の調査」
注: 2007年度から郵便事業(株)の取扱個数も計上している。

出所: 国土交通省ホームページ